

(126) 群馬県桐生市の黒川鉾山

参考文献(1)、(2)を手引きに、群馬県桐生市街から、あまり遠くないところにあるマンガン鉾山である、黒川鉾山跡の探査を行った。文献(1)には一カ所しか鉾山跡は紹介されていなかったが、文献(2)には黒川鉾山として、3カ所の鉾床が紹介されていた。図3参照。1回目に探査した、文献(1)で紹介されている鉾床は、黒川鉾山の大きな滝であることが確認された。沢を遡上した先には、落差10m以上の大きな滝があり、その近傍に坑口があったからである。沢一帯にマンガン鉾の転石、ズリもあった。

この鉾山跡への経路は次の通りである。小山市街からだと、50号線を、桐生を目指して、北西方向に進んで行く。桐生市内で、68号線に入り、北東方向に市街地を進む。本町三の交差点を右折し、227号に入る。直に桐生川を渡る。橋を渡って、約600m当たりで、左折し、細い道に入って行く。この地点は、後掲の写真を参照するとよい。後は、舗装されている林道を、黒川に沿って一路北東方向に進んでいく。途中右側に、黒川砂防ダムがある。このダムから、林道が二股に分かれている手前の、駐車した場所までは約1.6km。この駐車場から鉾山跡のある支流沢入口までは、林道を歩いて約150m。現在では、林道は、駐車場より先に、支流沢入口先まで車で上れる。が、車の駐車場所としては、二股の所の広い空き地がおすすめである。この当たりの沢にすでに、マンガンの転石があるので、沢を遡上しながら、マンガン探査を兼ねるのも良いであろう。

駐車場から右側の林道或いは沢を、登り上がっていくと、砂防ダムがある支流沢が右手に見える。この沢の上が、鉾山跡である。支流沢に入り、目の前の砂防ダムを迂回すると、直ぐに2つ目の砂防ダムが目に入る。2つ目のダムの先が、大滝鉾床鉾山跡である。所々に黒いマンガン鉾が転がっている。前方には落差のある大滝があり、その右手前に坑口がある。

文献(2)によれば、黒川鉾山として、近傍に、大合付坑、穴城坑がある。文献中の鉾床図には、少し不安があるが、大滝坑跡の確認ができたので、機会を見て、これらの坑跡の探査を行いたい。と考えていた。手元にあった参考文献(3)に、黒川鉾山の鉾床図が詳細に描かれているのを見つけた。図4参照。が、この図は少なくとも、40年以上も前の鉾床図である。現在の地形図と対照すると、大凡では合っているような気もするが、細かいところは当てにならないかもしれない。が、とにかく大滝坑跡を確認できたことに、自信を持って、残りの2つの鉾床跡の探査を行った。結果、2つの鉾床跡を確認することができた。

探査日 2013年5月～6月

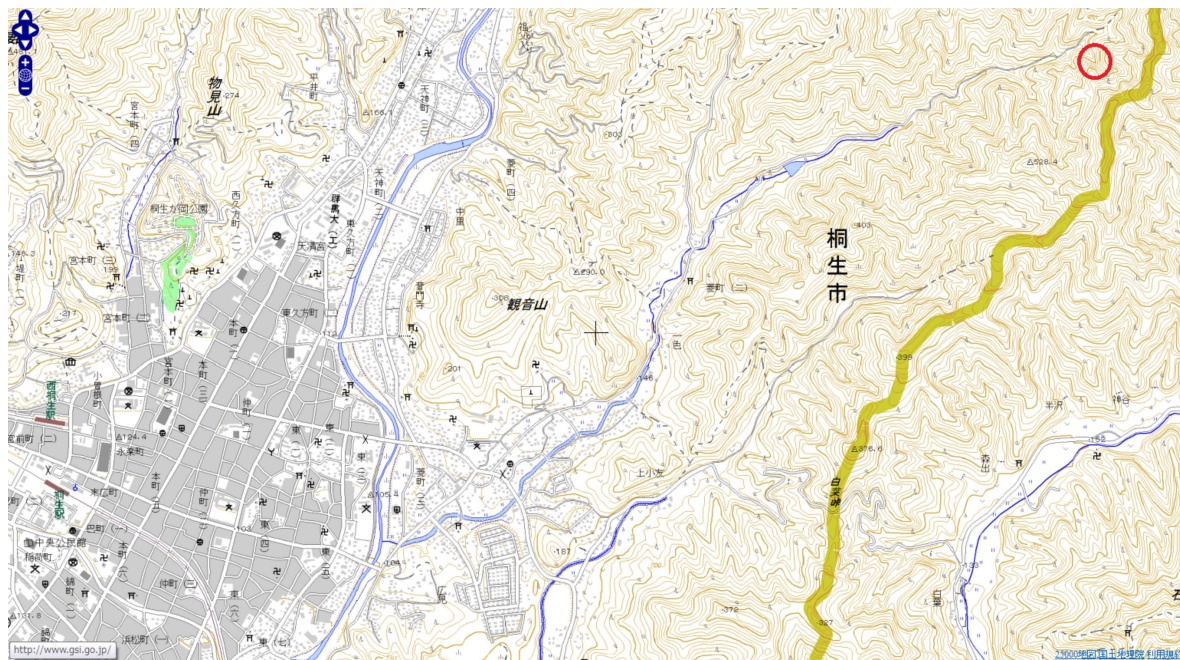


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。右上の赤丸付近が黒川鉾山大滝鉾床跡。左下が桐生市街である。桐生市街から、黒川沿いに北東方向に林道を進んでいく。現在では、オフロード車なら、鉾山跡先まで車で通行可能である。林道には仙人ガ岳への登山案内板がある。仙人ヶ岳への、黒川沿いの登山ルートがあることがわかった。



図2 図1の拡大図。P点が駐車場。標高340m。黒川砂防ダムより約1.6km。P点の先で林道は2つに分岐している。水色線で沢を、黒破線で林道を書き加えている。後掲している黒川鉾山鉾床図によれば、黒川鉾山には3つの鉾床があった。大滝鉾床、大合付鉾床、穴城鉾床である。数回の探査を行い、各鉾床跡を確認した。図中の滝があるところが大滝鉾床跡、上の右側が大合付鉾床跡、上の左側が穴城鉾床跡と判断した。左側の林道は車ではきつそうである。歩こう。右側はオフロード車ならば登り上がれよう。が、P点に駐車しておく方がよい。林道の分岐点には仙人ヶ岳への登山案内板が立っていた。

P点から右側の林道を、歩いて、150m～200mあたりで、右側の支流沢に作られた砂防ダムが見える。この先に大滝鉾床跡がある。連続して2つのダムがあり、その先には、非常に落差のある滝が正面に立ちはだかっている。滝に向かって、沢準位の右側に坑口跡があった。図中の黄緑丸が坑口跡。P点から坑口跡まで、沢には、黒いマンガン鉾の転石が目立っている。坑口あたりには、一応ズリらしい箇所はある。が、ダムの建設、或いは、ダムの土砂の堆積で消滅してしまったのかもしれない。治山工事、林道工事等で、多くの鉾山跡が消滅しているのが、現実である。

大合付坑へは、林道を先に登り上がっていく。この林道は仙人ヶ岳登山道にもなっている。途中、プラトー（鉾山施設跡か？）とズリ（？）跡があり、その先、林道終点付近で、登山道（＝林道）が細い山道になる当たりにもプラトーがあり、坑口があった。図中で、黒線輪はプラトー跡、茶色ベタがズリ跡を示している。

穴城鉾へは駐車場から左側の林道を登って行く。ズリ、プラトー、そして、その先に坑口があった。

鉾山跡写真



写真1 227号線に入り、東方向に進んでいる。桐生川を渡り、このところで、左側の細道に左折し、北東方向に進む。



写真2 図2中のP点の所である。この右側に適当な広さの駐車場がある。黒川砂防ダムから約1.6 km。この先で林道は、左右2つに分岐している。右側の林道方向に、大滝坑、大合付坑がある。左側の林道先には、穴城坑跡がある。

大滝坑跡



写真3 駐車場から林道を、沢を右下に見ながら150m前後登ってきた。右側の支流沢に砂防ダムが見える。このダムの向こう側に、もう1つ砂防ダムがある。これら2つのダムを乗り越えた先が大滝坑跡。ダムに向かって左側で、容易に迂回できる。沢にはマンガン鉾の転石が目立つ。



写真4 乗り越えた砂防ダムの少し前方には落差の大きなダムがある。滝に向かって右側下に、沢準位で坑口跡があった。あたりにはマンガン鉱が散らばっている。滝の落差は10m以上もある。坑口跡は大滝坑跡であると確信した。図4によれば、この滝の上流に露頭鉱脈及び幾つかの坑口がある。滝は登れない。両側の山の斜面も急である。道らしいものは全くない。尾根筋は遙か彼方である。ということで、滝の上流の探査は断念した。やはり、その内に、上部の探査を行いたい。



写真5 坑道の内部の様子。暗い。撮影失敗。撮影後、確実に映像を確認すべきであった。時折、確認を忘れてしまう。

大合付坑跡



写真6 林道を素直に登って行く。林道の右側にズリらしい斜面と、その上にプラトー。



写真7 ズリ跡らしいところから更に林道を登って行くと、仙人ヶ岳への登山道は、この箇所から細い登山道となり、林道は少し先で終了となる。



写真8 林道の終点箇所はプラトーとなっており、その先に、坑口跡があった。ここから碎石を、写真6の箇所に運んだのであろう。



写真9 坑道内部。しっかりした坑道である。

穴城坑跡



写真10 駐車場の先の左側の林道に入
って行く。



写真11 林道を素直に登って行く。
右側の崩れはズリと思われるが。崩れの上は広いプラトーとなっている。その先に坑口跡があった。林道は、この付近で終了となっている。



写真12 中央の黒い部分が坑口跡。
周りは草木で覆われている。時期によっ
ては、草木で隠されるであろう。



写真13 その内部。底に水がたまっているが、坑道は非常に綺麗であった。

採集鉱物写真

特になし。

参考文献

- (1) 「日本の鉱物」、松原聰、学研、2003年。
- (2) 「日本のマンガン鉱床 補遺 後編」、吉村 豊文、1969年。
- (3) 「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。